

2級建築士

1. 講座の概要

2級建築士は、大きく「学科」と「製図」があり、それぞれ「無料講座」と「会員講座」がある。

過去問は、建築技術教育普及センターとの使用許諾条件から会員講座のみでの公開としている。毎年(年末)、その年の最新問題の使用許諾を頂き、解答例を追加する。

2級建築士の講座は、2007年から最新年度の過去問を解説している(下表参照)。2級建築士の合格率は、1級建築士と比較する場合、約3倍と高い合格率となっているので、比較的合格しやすい。ただし、近年の問題は、かなり1級建築士の問題に近づいており、難しい問題が多々見受けれる。

以下に、1級建築士と2級建築士の学科及び製図試験の合格率を示す。過去数年の2級建築士の合格率は、学科30～40%、製図50～55%、最終20～25%である。

・1級建築士(2016年の合格率):学科=16.1%、製図=42.4%・・・ストレート合格なら **6.8%** と弁護士並みの難易度

・2級建築士(2016年の合格率):学科=42.3%、製図=53.1%・・・ストレート合格でも **22.5%** と通過しやすい難易度

製図試験の予測課題については、1級建築士の製図解説と同じように、「80%以上ズバリの中する項目別の予測課題の解説」をする。ただし、その予測課題は、現段階では、1点予測課題の取りまとめとなっている。

2級建築士は、大学、短大、高等専門学校で指定科目を修めた方は、実務経験0年で受験できる。高等学校で指定科目を修めた方は、実務経験3年で受験でき、学歴がない方でも実務経験7年で受験できる。

つまり、全く建築に関係のない方でも、実務経験により「2級⇒1級⇒設備・構造1級」の全ての資格を取ることができる。

・7年経験⇒2級建築士

・4年経験⇒1級建築士

・5年経験⇒設備・構造設計1級建築士

建築業界で生きていくと**志**を持たれた方は、当HPを活用して、2級建築士取得後に1級建築士の取得を目指しませんか。

建築系資格では、最難関と言われている1級建築士について、当HPの講座は効率よく学習できる内容となっている。また、2級建築士や設備設計1級建築士の講座もあり、それらの資料を年会費2万円(延長時は1万円/年)で全て閲覧できる。2級建築士取得後から1級建築士の受験までは4年間であるが、その間、当HPを活用して1級建築士の1発合格を目指しませんか(その間の費用は、4年間延長費×1万円/年=4万円とリーズナブルである、資格学校へ通学すると単年度で短期30万円～長期100万円)。

2級建築士(学科無料講座)

1章 学科試験の現状把握

2章 4科目の項目別問題別一覧表(2007年～最新年度)

3章 過去問の出題法文一覧表(2007年～最新年度)

2級建築士(学科会員講座)

1章 4科目の項目別問題別一覧表(2007年～最新年度)

2章 過去問10年の出題法文一覧表(2007年～最新年度)

3章 4科目全問題のポイント一覧表(2007年～最新年度)

4章 4科目の過去問10年の出題問題一覧表(2007年～最新年度)

5章 年度別の問題と解説(2012年～最新年度)

2級建築士(製図無料講座)

1章 製図試験の現状把握

2級建築士(製図会員講座)

1章 センター出題課題(2012年～最新年度)

2章 センター標準解答図(2012年～最新年度)

3章 センター出題課題の項目別分析(2012年～最新年度)

4章 予測課題の解説(2017年～最新年度)

2. 講座の一部紹介

2級建築士の学科および製図の講座から、一部を紹介する。

学科:4科目における過去問(11年)の項目別一覧表

⇒H19から最新年の過去問を項目別に分析し、問題番号を振分けた。どの項目がどの程度出題するか一目瞭然である。

製図:過去問分析の「1. 設計条件」の過去問一覧表

⇒H24から最新年の過去問を課題項目ごとに分析し、出題傾向等を解説している(製図試験も過去問分析が重要)。

2級建築士 4科目における過去問10年の項目別一覧表

表1 I計画の項目別一覧表(平成19年～平成29年)

NO	項目分類	年度										出題数 (個)	出題率 (%)	
		H19 (問目)	H20 (問目)	H21 (問目)	H22 (問目)	H23 (問目)	H24 (問目)	H25 (問目)	H26 (問目)	H27 (問目)	H28 (問目)			H29 (問目)
1	日本建築作品	1	1	1	1		1	1	1,2	1	2	1	11	4.0
2	西洋建築作品					1	2	2		2	1	2	6	2.2
3	用語・環境総合	2,9	2	2,9	2	2,9	3	3	3	3	3	3	14	5.1
4	伝熱	5,6	5,6	5,6	5,6	5,7	5,6	5,6	5,6	5	4,5	5	20	7.3
5	空気・換気	3,4	3,4	3,4	3,4	3,4	4	4,8	4	4,6	6	4,6	19	6.9
6	日照・日射	7	7	7	7	6	7	7	7	7	7	7	11	4.0
7	色彩・照明		9		9		8		8	8	8	8	7	2.5
8	音響	8	8	8	8	8	9	9	9	9	9	9	11	4.0
9	屋外気候						10	10	10	10	10	10	6	2.2
10	住宅計画	10	10	10	10	10	11	11	11	11	11	11	11	4.0
11	集合住宅計画	11	11	11	12	11	12	12	12	12	12	12	11	4.0
12	事務所・商業施設	13,14	12,13	12,13	11,13	12,13	13	13	13	13	13	13	16	5.8
13	公共施設	12,15	14,15	14,15	14	14,15	14,15	14	14	14	14	14,15	17	6.2
14	その他施設			17				15	15	15	15		5	1.8
15	寸法・平面計画		16	16	16	16		16	16	16	16	16	8	2.9
16	高齢者対応	16	17,18		15	16	16	18	17	17	17	17	11	4.0
17	その他計画	17,18		18	17,18	17,18	17,18	17	18	18	18	18	14	5.1
18	設備用語	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	11	4.0
19	空調設備	20	20	20	20	20,21	20,21	20	20,21	20,21	20,21	20,21	17	6.2
20	給排水設備	21,22	21,22	21,22	21,22	22	22	21,22	22	22	22	22	16	5.8
21	電気設備	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23,24	12	4.4
22	防災設備	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	10	3.6
23	環境配慮・省エネ	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	11	4.0
	合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	275	100

注1)項目分類は同類問題の名称を示す。H(平成)は出題年度を示す。表内数値(1~25)は問題番号を示す。

2級建築士 製図試験【過去問分析(1)】「1. 設計条件」の過去問一覧表

過去問分析について

製図試験で重要なことは、**問題文をしっかりと読み解く**ということである。
 問題文をしっかりと読み解くための最も効果的な方法は、過去問の分析である。学科試験も過去問分析が王道といえるように、製図試験も過去問分析は必須事項である。逆の言い方をすると、製図試験を受けるに当たって、過去問分析をしないで行くことは非常に危険であるとも言える。

過去問は、試験年度の見直しとなった10の年から現在までの全てを分析する。この取りよめには、1~2週間程度の時間を要するが、研究の集約は、その時間をばらばらと取って頂くことが可能。なお科目1は全問を1日で行って2日の資料を仕上げる。残りの内容を把握し、研究の資料は、問題文を下部の2項目に分けて、その項目ごとに全ての過去問を一覧表にまとめて、詳細な分析を行い、**共通事項**をまとめているので、読むだけでその項目の全容が分かっていく。

- 過去問分析(1) 1. 設計条件
- 過去問分析(2) (1) 敷地
- 過去問分析(3) (2) 用途、用途及び建築物の用途
- 過去問分析(4) (3) 延べ面積
- 過去問分析(5) (4) 人数構成等
- 過去問分析(6) (5) 要求数
- 過去問分析(7) (6) 階段、エレベーター及びスロープ
- 過去問分析(8) (7) 屋外気候等
- 過去問分析(9) 2. 要求図書

「詳しく読む」は、要求書の条件を間違えないことになり、**出題者の意図**を知ることにもなる。1項目だけの過去問を全てを調べると、その出題パターンが見えてきて出題者の意図が分かるようになる。この項目の定題文は例で、毎年2~3を覚えておくといい。また、**読み解く**は、その項目での**定題文**をしっかりと把握することで、定題文以外をチェックするという読み方ができる。この読み方ができる。通常は読む時間の半分以上の時間で問題文が読めるようになる。製図は、**時間勝負の試験**であるので、「読み解く」能力は試験前に訓練する事項であり、定題文地盤が一番効果のある学習法である(問題文の多くの部分は定題文である)。

問題文

問題文からは、大きく敷地コンクリート造か、木造かが、建築士に分かる。これは、建築発表時に有利なので、該当する過去問を学習して、敷地コンクリートの図面または木造の図面を書くようにする。
 過去問の出題は下記の通りである。

- H24:敷地コンクリート造 2階建
- H25:木造 2階建
- H26:木造 2階建
- H27:敷地コンクリート造 3階建
- H28:木造 2階建
- H29:木造 2階建

1. 設計条件

「1. 設計条件」は、この製図試験の計画地の建築条件や設計目的などが書かれている。
 大きくは、**概工と留意**(備考書き)の2つの構成となっている。
 この概文は、毎段の条件がないことから、何気なく読み終える方も多いが、実は設計上かなり**重要な方針**などが書かれているので、留意して読む必要がある。
 概文は、「この地方...計画する。」となっている(各年度の内容は下記の通りである)。その後、強調したい内容がある場合(H24、H28、H27)は、**補文**が追加されている。この補文は、全文で約60~120文字の内容となっている。その後、「計画に当たっては、次の①~③に特に留意する。」が書かれている。

- H24:ある地方都市において、...を計画する。
- H25:ある地方都市の住宅地において、...を計画する。
- H26:ある地方都市の住宅地において、...を計画する。
- H27:ある地方都市の集会所において、...を計画する。
- H28:ある地方都市の住宅地において、...を計画する。
- H29:ある地方都市の住宅地において、...を計画する。

計画の留意事項は、下記のような**共通事項**が見えてくる。

【共通事項①:耐震性】

H26以前は、毎年、最後の備考書きで「耐震性」が書かれていた。
 H26も当然「耐震性」に考慮した設計をする必要があり、当然の内容として耐震された可能性もある。H29は、削除されているので、今後も書かれない可能性がある。

- H24:①建築物の耐震性を確保する。
- H25:①建築物の耐震性を確保する。
- H26:①建築物の耐震性を確保する。
- H27:①建築物の耐震性を確保する。
- H28:—
- H29:—

【共通事項②:アプローチ】

「アプローチ」は、外部動線を示すものである。

- H24:②公算から、施設を直接利用...
- H25:②公算から、施設を直接利用...
- H26:②公算から玄関へのアプローチ...
- H27:②公算から玄関の出入口への主たるアプローチ...
- H28:—
- H29:②自動車スペースから玄関アプローチへのアプローチには屋外スロープを計画し...

【共通事項③:主な要求数】

「主な要求数」の条件は、この留意に書かれている。
 ここに書かれている要求数は、この建築物で要求数であるとは出題者が言っていることなので、試験では、この要求数に乗ってマークをして、「要求数等」にも同じマークなどを重要であることを留意的に把握した方がいい。

- H24:③自動車スペース、屋外フェードラス、④多目的スペース(災害時も利用)
- H25:③公算から、住宅部分、④客室、屋外デッキ(災害時)
- H26:③客室の配置・動線、廊下の幅、住宅部分、客室、災害時利用、④要求数の床高
- H27:③車庫、④自動車スペース、⑤動線、⑥客室コーナー、⑦災害時利用、⑧要求数の床高
- H28:③客室(炊飯)、④自動車スペース(多目的利用)
- H29:③客室、④客室、⑤多目的室(研究、要介護者の個室)